



園だより



令和4年1月27日
佛教大学附属幼稚園



「仏教保育2月のねらい」
ぜんじょうせいじゃく
禅定静寂

「心を落ち着かせる時間」

園長 佐藤和順

今年は雪が降る日や風の強い日も多く、例年に比べ寒さが厳しいように感じられます。そして現在、再度、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、いろいろな制約や厳しい状況での保育が続いています。このような状況下ではありますが、園児は、毎日園で明るく、正しく、仲良く過ごしています。幼児期は人格形成の基礎を培う、たくさんの経験や学びをする時期です。コロナ禍だからとすべてを中止にするのではなく、教職員一丸となって、感染防止に努めながら、可能な範囲で通常と変わらない経験や学びをしてほしいと奮闘しているところです。何かのせいにして「できない、仕方がない、残念」と終わらすことは容易ですが、幼児期の重要性を考え子どもに「できた、がんばった、幸せ」と感じてほしいと願っています。今後も、これまでの保育や行事のあり方とは異なるかもしれませんが、コロナ禍に負けないようにしっかりと考えて保育を展開していきます。

今月の保育の目標は「禅定静寂(ぜんじょうせいじゃく)よく考え落ち着いた暮らしをしよう」です。禅定とは落ち着いた豊かな心、心を集めて安定させること。静寂とは、どのような環境にも心静かに対応することを意味しています。思いつきを実行すると、失敗することがままあります。行動に移す前にじっくり考え、世の中の動きに巻き込まれずに、しっかりと地についた生活をしたいものです。

私たち大人は、日々の忙しさや大変さに追われ、落ち着いて過ごすことができていないことが多々あります。仕事に追われる大人のみならず、現代社会を生きる子どもも同様に考える時間、落ち着いた時間をとることは難しいかもしれません。園では降園の集いの時間に、1分にも満たない短い時間ですが「黙想」の時間を取るようにしています。先生が弾くピアノが流れている間、園児は姿勢を正して目をつぶり、静かに過ごします。1日の終わりにあたり、心を落ち着け、今日1日をしっかりと振り返る時間です。シーンとした静寂の中、短い時間ではありますが心穏やかに集中して過ごす時間になっています。

私たち大人も、日々の生活を振り返る時間を持ちたいものです。

- コロナ禍についても様々な情報に振り回されず、思いつきで
- 行動をするのではなく、「禅定静寂」を心がけたいものです。

